

謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

久保宏史氏 山陽小野田医師会 4月29日 享年84

会員の処分について

定款第13条第1項に基づき、次のとおり会員（1名）の処分を行いました。

処分内容 戒告処分（令和3年5月13日付け）

処分理由 道路交通法違反（酒気帯び運転）及び過失運転致傷

編集後記

「ゼロ号患者（Patients Zero）」をご存知でしょうか。

疫学調査上で集団内最初の患者となった人物を指す単語（Index Case）と同義に使われます。2020年刊行の『0番目の患者 逆説の医学史』では、この「ゼロ号患者」という言葉を意図的に拡大解釈し、さまざまな症例を取り上げている。第1章は、脳の言語領域の特定に貢献した男性タンタン。19世紀のパリ、てんかんで入院した31歳の彼は、何を聞かれても「タン」としか答えないためタンタンと呼ばれた。タンタンは20年の長期入院の果てに亡くなり、死亡翌日に脳を剖検された。タンタンの左前頭野に神経梅毒による損傷を見つけたポール・ブローカ教授は、解剖したその日に学会でこの輝かしい発見を発表する。そうです、ブローカ野ですね。第8章では、性別適合手術のゼロ号患者となるデンマークの画家リリー・エルベが取り上げられる。同じく画家であった妻のモデルになったことをきっかけに、やがて完全な女性になる事を願ったリリーは、睾丸切除術、ペニス切除術、卵巣移植術を受け、執刀医とともに一躍時の人となる。その後、膣形成術、子宮移植術という1930年代においてはとても安全とは言えない手術まで突き進み、拒絶反応を起こし敗血症で死亡。最初の手術から14か月後の死であった。その他にも狂犬病ワクチンを初めて接種された少年ジョゼフ、このコロナ禍の中で有名になったチフスのメアリー、無症状尿路感染症のゼロ号患者セルマや、知らないうちに抽出・培養された自分のがん細胞が死後も数々の研究に活用されたヘンリエッタなど19人の患者が描かれている。著者ペリノは、生物医学分野の進歩に大いなる貢献をした最初の患者に敬意を表すると同時に、欲望や金儲けのために道を踏み外した数々の医療を告発している。そしてこの本の最後では、公的保険機関、保険会社、企業、弁護士、政府当局、製薬会社などの商人が、医学の主役を医師と患者から奪ってしまったとも述べている。かなり辛辣な医学史だが、医療関係者にお勧めです。

『0番目の患者 逆説の医学史』リュック・ペリノ 柏書房

（常任理事 長谷川奈津江）